

P 4 1 地方における禁煙支援ネットワークの創設とその組織化について～ 禁煙健康ネット大分（KK大分）の事例から～

所属：禁煙健康ネット大分世話人 伊藤内科医院

発表者：伊藤裕子

共著者：伊藤内科医院 伊藤彰

大分市保健所 工藤政信

松本内科循環器科クリニック 松本悠輝

九州大学病院 別府先進医療センター 吉河康二

大分大学 教育福祉科学部 住田実

のだ小児科医院 野田隆

慶應義塾大学 禁煙健康ネット事務局長 三浦秀史

奈良女子大学 禁煙マラソン・禁煙健康ネット主宰

高橋裕子

【はじめに】大分県における禁煙支援推進の地域ネットワークの立ち上げ事例をとおして、地方に根ざした禁煙推進運動の必要条件について考察する。

【経過と考察】従来大分では、医師、薬剤師などの医療関係者、教育関係、行政関係の禁煙についての連携の場や学ぶ場はほとんど構築されていなかったが、2006年7月1日より禁煙健康ネット（KK）の地方版として、禁煙健康ネット大分（KK大分）をスタートさせた。そして、その「第一歩」の踏み出しとして「第32回禁煙アドバイザー育成講習会」と「大分県禁煙フォーラム」を「禁煙マラソン」事務局との共催で実施した。その過程では、次の2点の課題が意識された。

第1は、これまで禁煙支援についての連携の場や学ぶ場はほとんど構築されていなかった地で、どのような人材の構成によって組織化をスタートさせるかである。これについては、立ち上げの主要メンバーの職種を医師、保健所関係者、薬剤師、保健師、大学教官（教員養成課程）と可能な限り広げることにより、臨床医学・薬学、公衆衛生、教育方法・教員養成・教員研修の幅広い分野にわたる「呼びかけ」と職種をこえた情報交換・相互交流を可能とする態勢を図った。

第2は、禁煙支援の取り組みを全国津々浦々に広げるためには、述べるまでもなく各々の＜地域の特色や実態に応じた取り組み＞が不可欠と思われる。そこでKK大分のスタート年にあたっての重点活動としては、その観点から、ここ数年、地元・大分市が目指している「日本一きれいなまちづくり運動」に着目した。「全国禁煙アドバイザー育成講習会」に先立ち「市民いっせいごみ拾い」に大分市長とともに参加。



その結果、「全国禁煙アドバイザー講習会」と共催した「大分市禁煙フォーラム」では大分市長も演者として参加し、地元マスコミによる報道とも相俟って大きな反響を呼んだ。参加者は当初の予定を大幅に上回る132名、KK大分への参加者も大幅に増えた。

KK大分スタート年としては、この講習会とフォーラムだけでも十分な手ごたえを感じていたが、11月に大分市と大分市保健所が主催する「いきいき健康まつり」での禁煙相談を担当することになった。担当者の禁煙支援の方向性にばらつきがでないように、「第1回KK大分自主勉強会」を開催し、Q&Aを使ったロールプレイなどで禁煙相談に備えた。当日2日間の禁煙相談コーナー来場者は336名に上り、禁煙相談者は83名であった。KKメンバーそれぞれが現場に帰った時、禁煙支援に役立つ禁煙相談が出来た。



今後は、全国禁煙アドバイザー育成講習会の大分開催、大分県禁煙フォーラムの開催、いきいき健康まつりでの禁煙相談をそれぞれ継続していく予定である。また、小規模での禁煙支援者講習会、講演会の開催、大分県、大分県医師会、大分県歯科医師会、大分県薬剤師会、大分県看護協会との連携を図っていく。

【結論】KK大分を通じた活動は地域住民に好意的に受け入れられた。「地域の実態に根ざしたKK活動」が地元の行政、公共施設、医療機関教育機関に受け入れられた結果といえる。今後はさらにこの活動を組織化し続けてゆくことで、社会全体の意識改革を促す。